

医工共通教育プログラム（医科学修士講義）受講者の声

1. 受講する際に留意したことは？

- 人体構造学を事前に勉強した。
- 教養課程で履修した「生命化学」の教科書を読んでから講義に参加した。
- 自分の研究に生かせる内容があるかどうか考えながら受講した。
- Whether the content is related with my research or not.
- 自分の研究テーマはある疾患に直接関わる部分が大きかったため、この機会にぜひ医科学を学んでおきたいと思った。また、基礎研究のみならず、臨床に携わっている先生方の講義は普段なかなか受けられないと思い、貴重な機会に感じて参加を決めるに至った。
- 自分の研究対象に関連のある疾患の成因について、大まかに復習した。また、解剖実習の前には図書館で組織学の教科書を借り、実際の観察の際にイメージが湧きやすいようにした。
- 予習した上で授業に臨み、わからない点は授業中に質問するよう心掛けた。
- 特に事前準備はしなかったが、自身の研究が活かせる疾患を探したり、医学的な基礎知識を身につけることを念頭において受講した。
- 医科学研究の理論的背景を系統的に学ぶ機会が今までなかったので、本プログラムによって医科学研究分野を広く理解し、これを自分の専門分野とする絶好の機会と思い、参加を決めるに至った。

2. プログラムの内容について

- 臨床における診断・治療方法の紹介、各臓器における疾患、組織学を勉強することができ、また実際にヒトの病理標本を触って観察することができた。
- それぞれの分野でいま最も多い疾患は何で、それに対してどれだけ熱心に取り組んでいるかを理解することができた。
- 解剖実習により、気にしていなかった身体の細部の細胞構造や、大まかな病理的知識を得ることができた。
- 解剖学などの実習にも触れる機会があったため、普段見ない視点から生体の仕組みについて学ぶことが可能であった。
- 自分の研究の治療対象である肺や食道の構造、疾患、診断方法・治療方法の講義は非常に参考になった。病理学も今まで触れたことが無かったので参考になった。
- The classes were abundant in contents, including questions and answers during lessons, vivid speeches from teachers and a tour to the Todai hospital. To me, it's a good chance to study professional medical Japanese.
- 講義レベルは難しかったが、理解できた。
- 疾患のメカニズムについては（当然ながら）未だ解明されていない部分も多いこと、逆にメカニズムは分かっているにもかかわらず有効な治療法が確立されていない例も多々あること、さらに発症機序に直接関係のない部分も治療の標的となりうることを広く知ることができ、参考になった。
- 基礎研究で医学に携わる以上、その先に患者一人ひとりの命があることを痛感した。
- 解剖実習を行ったことで、今まで論文を読んでいて不可解だった HE 染色について理解が深まった。

- 系統的な講義によって、現状の医療技術を以てしても治療困難な疾患の存在を知ることができ、広い範囲の医療に関する知識に触れられた
- 自分の研究対象である癌・感染症・免疫学に関する講義が参考になった。組織のどの細胞が癌化するのかといった点や、様々なウイルスや細菌の特徴や違いについて、免疫担当細胞の抗原の取り込みから抗原提示についてなどといった点が参考になった。

3. 今後の自身の研究に対してどのような波及効果をもたらされるか？

- 各臓器における疾患と治療方法、その課題を広く知ることができたので、自分の研究の具体的なアウトプットを想像することができるようになった。
- 具体的に疾患を想像できるようになり、自分が開発しようとしているものの位置づけを明確にすることができるようになった。
- 研究を進めるに当たり、医師から情報を求めるのではなく、こちらも熱意を持って提案していかなければという研究の心構えが整った。
- これまでは、対象となる患部に与えた刺激（術具・X線等）に対しての情報・反応を機械的に解析し、処理するのが我々の役目であると思っていたが、医科学の分野に触れることで、その反応のメカニズムにまで考えを巡らせることができるようになった。
- Before I attend this program, I feel confused sometime during experiments. I didn't know how to define some phenomena or I was not sure about my thoughts. After this program, at least I feel more confident about my own research and I know where to find the professionals if I have questions about experiments again.
- 各臓器の成り立ち、様々な疾患やそれらの治療における課題を知れたことで、広い医学の中における自分の研究の位置づけや発展性について想像できるようになった。
- 研究を進めるにあたり医学論文や医学書を参照することを厭わなくなった。さらに、講義後に何人かの先生方に質問しに行ったことを通し、医学の基礎研究・臨床に携わっている方を以前よりも身近に感じられるようになった。
- 今後の研究を進めていく上で、医師の視点や臨床的な観点を知ることができ、自分の研究の出口を見直す良い機会になった。
- 医療の現状について幅広く触れたことで、治療方法に限られる疾患、とりわけ自己免疫疾患や脳疾患について課題を解決できるような研究をしてみたいと考えるようになった。
- これまでは、実験をしても論文を読んでも、ヒトでの疾患等の事象を想像することしかできなかったが、本プログラムで実習に参加したことで、基礎研究と臨床の違いの理解に役立った。

(2018.9)